

【エクアドル内政・外交：2018年6月】

1. 内政

（１）報道関係誘拐被害者等の遺体を確認されたとの発表（6月26日付け）

6月26日（火）午前、本年3月26日に誘拐被害に遭って殺害された報道関係者3人に関して、エクアドル政府から、同3人の遺体を確認したとの発表がなされた。概要以下のとおり。

ア 発表概要

21日（木）午前、コロンビア政府は、コロンビア国内において誘拐され殺害された報道関係者3人と見られる遺体を含む4人の遺体を発見したと発表した。

発見の後、エクアドル政府とコロンビア政府が協働し、同遺体の身元確認等を行った結果、4遺体の内3人は、殺害された報道関係者3人であることを確認した。また、他1人の遺体は、通称「Guacho（グアチヨ）」が首謀者として所属する元FARCを起源とする犯罪組織「Oliver Sinisterra（オリベル・シニステラ）」の一員であると見られている。

イ 発見状況

① 場所

コロンビア国内トゥマコ市内の山中

② 遺体の状況

同山中のそれぞれ近い範囲の土中に遺体が個別に埋められていた。各遺体は、腐敗が進行しており、頭部に銃創が認められた。

③ 発見の経緯

コロンビア警察及びエクアドル警察が協働し、遺体が隠匿されている場所についての情報を得て所要の捜査を行い遺体の隠匿場所を把握し、埋められていた場所を警察犬により特定した。遺体が埋められていた場所の周囲には、犯罪組織によると思われる対人地雷が設置されていたが、起爆することはなく、遺体は安全に収容された。

④ 身元特定の資料

DNA鑑定、指紋、歯型等の身体特徴、着衣等

ウ 遺体の措置

コロンビア国内カリ市内において、26日までに司法解剖等所要の手続きが行われた。翌27日にエクアドル国内キト市内に搬送され、遺族に引き渡される予定。

（２）閣僚（外務大臣）の交替

ア 6月8日、国家コミュニケーション庁が、外務大臣の6月11日付での交

替を発表した。関連の報道振りの概要は以下のとおり。

① モレノ大統領は、6月11日、エスピノサ外務大臣の辞任を承諾する。

同日、同外務大臣は、新政権発足以降担っていた外務大臣としての活動について説明会を行う見通し。

② 同外務大臣の辞任は、同大臣の次期国連総会議長就任が決まったことを受けて発表された。

③ エスピノサ外務大臣の後任は、ホセ・バレンシア現OAS大使。同大使は、職業外交官で、法学及び政治学を学んでおり、外務副大臣や外務大臣室長を含む外務省内の多くの役職の経験がある他、多くの教育機関において講師を務めた経歴がある。

イ 6月8日付の国家コミュニケーション庁の発表は、以下のとおり。

「国家コミュニケーション庁は、モレノ大統領が、本日グアヤス県において開催された会合の中で、6月11日に、エスピノサ外務大臣の辞任を承諾する予定である旨報告する。

エスピノサ外務大臣に替わって外務大臣となるのは、ホセ・バレンシア氏である。」

ウ 大統領令

モレノ大統領は、6月12日付の大統領令第430号により、外務大臣を交替した。

① 辞任閣僚

マリア・フェルナンダ・エスピノサ・ガルセス外務大臣

② 新任閣僚

ホセ・サムエル・バレンシア・アモレス外務大臣

2. 外交

(1) エスピノサ・エクアドル外務大臣の第73回国連総会議長への選出

6月5日、エスピノサ・エクアドル外務大臣が次期（第73回）国連総会議長に選出された。

(2) 米朝首脳会談開催への満足の意の表明：外務省プレスリリース

エクアドル外務省は、6月13日、米朝首脳会談が開催されたことへの満足の意を含むプレスリリースを発出した。その概要は以下のとおり。

ア エクアドル政府は、朝鮮半島の安定のため、米朝首脳会談が開催されたことへの満足の意を表明する。

イ エクアドルは、両国（記載のママ）の、新しい関係の構築と、地域及び世界の持続的な平和に資する体制の構築のための決断を、肯定的に評価する。

ウ 外交的な事前の接触及び北朝鮮と米国の元首の会合自体は、意見の相違の平和的な解決のためには対話と前向きな交渉が適切な道筋であることを実証している。

エ 平和と軍縮を積極的に推進し、大量破壊兵器の開発及び使用を非難する国として、エクアドルは、両者の約束の実行の進展を応援する。

オ また、（エクアドルは）全ての国に対し、核不拡散のための国際的な法的文書に加入すること、関連する機関、監視のための多国間体制に全面的に協力すること、原子力エネルギーの平和利用に貢献することを、呼びかける。

（３）大阪府北部地震に対するエクアドル政府の連帯の意の表明（外務省プレスリリース）

６月１９日、エクアドル外務省は、大阪府北部地震に対するエクアドル政府の連帯の意の表明を含むプレスリリースを発出した。概要は以下のとおり。

ア エクアドルは、６月１８日に発生した大阪におけるマグニチュード６．１の地震を受け、日本政府及び国民へ連帯の意を表明する。

イ エクアドル政府は、この自然現象による人命の損失、多くの負傷者の発生、大きな物理的な損害を遺憾に思い、困難な時期にある日本にお見舞いの意を表明する。

ウ エクアドルは、負傷者及び被災された家族の早期の回復をお祈りする。

（４）ペンス米国副大統領のエクアドル訪問

ア エクアドル外務省プレスリリース

６月２７日及び２８日の日程で、ペンス米国副大統領がエクアドルを訪問し、モレノ・エクアドル大統領との会談を実施した。これに関し、６月２８日、エクアドル外務省は、同会談の成果について、公式声明の形でプレスリリースを発出した。その概要は以下のとおり。

① モレノ・エクアドル大統領は、ペンス米国副大統領の６月２７日、２８日の公式訪問を歓迎した。両者は、経済、開発、治安、移民、民主的ガバナンスの分野を含む分野における強固な二国間関係を確認した他、両国関係の強化のため取り組んで行くことで一致した。

② 治安

エクアドル大統領と米国副大統領は、特にエクアドル北部国境地域における、国境を越えた組織犯罪、麻薬密輸、暴力との闘いのための両国による主導を拡大することの重要性につき一致。「ペ」副大統領は、この分野における協力の

ための資金を拠出する意向を表明した。

③ 経済・投資

両者は、両国の通商及び投資を促進する重要性につき一致。右は、両国の福祉及び雇用を創るもの。「ペ」副大統領は、民間投資を活性化させ経済成長を刺激する「モ」政権の取組みの重要性を強調。「モ」大統領は、米国の一般特惠関税制度の延長への評価を表明した他、マグロ、バラ、ブロッコリー等の商品の米国市場へのアクセスのための考慮を改めて要請した。

また、両国間の貿易投資委員会 (Consejo bilateral de Comercio e Inversion) の 2018 年中の再活性化のために必要な環境の整備のため、貿易関係でのペンディング事項の解決のために取り組んで行くことで一致した。

④ 政策対話

両者は、両国関係の強化のため、2018 年末までに二国間政策対話を行う意向を表明した。

⑤ 開発協力

両者は、司法共助及び犯罪人引渡し、汚職、脱税、資金洗浄への対策を含む分野における緊密な協力の実施の重要性を認識し、その意味で「ペ」副大統領は、透明化計画、市民社会への協力、組織強化計画を支援するための資金援助を行うことを発表した。

⑥ 移民

両者は、米国在住のエクアドル人の状況、エクアドル在住の米国人について意見交換し、領事面での両国間の対話の緊密化を約束した。

⑦ 地域情勢

両者は、ベネズエラにおける民主主義、人道・人権状況の悪化についての懸念を表明。右は、エクアドル及び他国への 200 万人のベネズエラ人移民を生じさせている。両者は、人道支援、ガバナンス、基本的人権及び自由の有効性の促進のため、排他的でなく、検証可能で、国際的監視のある形の対話及び他の民主的方法を通じた、OAS 等の地域機関の枠組みにおける取組みを行っていくことを約束した。「ペ」副大統領は、ベネズエラを逃れた約 15 万人のベネズエラ市民の受入れのためのエクアドルの尽力を評価した。

両者は、ニカラグアにおける過去数ヶ月間の、200 人以上の死者及び何百人もの負傷者を発生させた暴力行為、人権侵害を批判した他、暴力の即時停止、平和及び民主主義の有効性の早期の回復を呼びかけた。同様に、ニカラグアにおける、相違を解決するための唯一の方向性としての国民対話の実施を強く主張した。

⑧ 最後に、「ペ」副大統領は、「モ」大統領、エクアドル国民及び政府の温かい受入れに感謝し、建設的な対話及び各種の合意の達成への満足の意を表明

した。「モ」大統領は、有意義な成果があったことを強調し、主権、平等、実効性を尊重した形の二国間関係を強化していく意向を表明した。

イ 報道振り

ペンス米国副大統領のエクアドル訪問に関する6月29日付当地主要3紙（エル・コメルシオ紙、エル・ユニベルソ紙、エル・テレグラフォ紙）の報道のポイントは以下のとおり。

① 訪問概要

ペンス米国副大統領は、27日（水）17時、伯からキトに到着し、28日（木）正午にグアテマラに向けキトを発った。約20時間のエクアドル滞在期間中、「ペ」副大統領はモレノ・エクアドル大統領と2回の会合を行った。

1つ目の会合は、27日夜に行われたレセプション形式のものであり、右には米国側の一行及びエクアドル政府閣僚等が出席した。

2つ目の会合は、28日に行われた二国間会談及び共同記者発表であった。

② 成果概要等

（総論）

本訪問は、エクアドルと米国の10年間の緊張関係に終止符を打つ、両国にとって歴史的なものであった。「ペ」副大統領は、「本訪問は、両国間で存在はしていたものの、過去10年間距離のあった関係を再開させる機会となった。」と述べた。「モ」大統領は、会談は生産的で非常に良いものとなったと述べた。

（各論）

（ア）米国の700万ドルの協力のコミット

本訪問の柱の一つは、米国からのエクアドルへの協力であった。米国は、エクアドルに対し、汚職対策のための協力（150万ドル）、麻薬密輸対策を含む治安・国防分野への協力（350万ドル）、エクアドルに逃れたベネズエラ移民の支援のための協力（200万ドル）の計700万ドルの協力をコミットした。

（イ）地域情勢

ベネズエラにおける人道及び経済的情勢に関し、「ペ」副大統領は、マドゥロ・ベネズエラ大統領を「独裁者（dictador）」と評価し、マドゥロ政権の隔離のためのエクアドル及び地域の、より確固たる団結した取組みを要請したのに対し、「モ」大統領の提案は対話であり、同大統領は、自分（「モ」大統領）の国民投票実施の提案への回答を待っている旨述べた。（当館注：本件ベネズエラ情勢について、エル・ユニベルソ紙及びエル・テレグラフォ紙は、両者に立場の違いがあることを強調し報じた。）

「モ」大統領は、ニカラグアにおける暴力の停止を改めて呼びかけた他、○

A Sと協力していく姿勢を明らかにした。

ウ 政策対話・経済

「モ」大統領は、今年の実に、二国間政策対話及び貿易に関する委員会の会合の場を設けることを強調した。

「ペ」副大統領は、国際機関とともに、将来的な融資を実現することをコミットした。「モ」大統領は、マグロ、ブロッコリー、アーティチョーク、花の輸出品目について、米国の一般特惠関税制度による関税免除の対象に含めるよう要求した他、3万トンを限度とした対米鉄鋼輸出の無関税枠の導入を要求した。2014年から2017年の間に、非石油部門の対米エクアドル輸出は25%減少し、対エクアドル米国輸出は39%減少している。

③ その他

(ア) 米国民民主党上院議員のグループが、「ペ」副大統領に対し、エクアドルがアサンジ・ウィキリークス代表に与えている庇護に対する懸念等についての書簡を送付した。

(イ) カレン・ペンス米国副大統領夫人は、ロシオ・ゴンサレス・エクアドル大統領夫人の同伴で、キト市の歴史地区を歩き、ロダス・キト市長及び同夫人与数分間面会し、姉妹都市、都市間及び市長間のネットワーク等に関する意見交換を行った。右は、国際儀礼の基本ルールを超えるものであった。

(了)